

Oracle® Solaris 10 JumpStart から Oracle Solaris 11.3 自動インストーラへの移行

ORACLE®

Part No: E62541
2016 年 7 月

Part No: E62541

Copyright © 2011, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

| | |
|---|-----------|
| このドキュメントの使用方法 | 9 |
| 1 JumpStart と自動インストーラの比較 | 11 |
| JumpStart と AI の類似点と相違点 | 11 |
| JumpStart から AI への移行情報 | 12 |
| 2 JumpStart rules ファイルとプロファイルの変換 | 15 |
| AI クライアントの条件および AI マニフェストについて | 15 |
| rules ファイルのキーワードと AI 条件のキーワードの比較 | 15 |
| プロファイルのキーワードと AI マニフェストの要素の比較 | 17 |
| js2ai の使用による JumpStart rules ファイルおよびプロファイルから AI 条件およびマニフェストへの変換 | 22 |
| js2ai による JumpStart デバイス指定の変換方法 | 23 |
| ソフトウェアパッケージの変換 | 25 |
| js2ai を使用した rules ファイルおよびプロファイルの変換 | 28 |
| 追加のプロファイル変換情報の表示 | 36 |
| 出力 AI マニフェストの検証 | 36 |
| 3 sysidcfg 構成ファイルの変換 | 37 |
| sysidcfg キーワードとシステム構成プロファイルディレクティブの比較 | 37 |
| js2ai を使用した sysidcfg ファイルからシステム構成プロファイルへの変換 | 39 |
| js2ai 変換の警告 | 40 |
| js2ai を使用した sysidcfg の変換 | 41 |
| 詳細な構成変換情報の表示 | 43 |
| 出力システム構成プロファイルの検証 | 43 |
| 4 Oracle Solaris 11 サーバー上の JumpStart を使用した Oracle Solaris 10 のインストール | 45 |

| | |
|---|----|
| Oracle Solaris 10 JumpStart サーバーとしての Oracle Solaris 11 システムの設 定 | 45 |
| ▼ Oracle Solaris 10 JumpStart サーバーとして Oracle Solaris 11 システム を設定する方法 | 45 |
| 索引 | 49 |

表目次

| | | |
|-----|---|----|
| 表 1 | JumpStart と AI のタスクの比較 | 11 |
| 表 2 | JumpStart rules ファイルと AI 条件のキーワードの比較 | 16 |
| 表 3 | JumpStart プロファイルのキーワードと AI マニフェストの要素の比較 | 17 |
| 表 4 | sysidcfg キーワードと構成プロファイルディレクティブの比較 | 37 |

このドキュメントの使用方法

- **概要** – Oracle Solaris 10 JumpStart から Oracle Solaris 11 Automated Installer に移行する方法を示します。
- **対象読者** – 技術者、システム管理者、および認定サービスプロバイダ
- **必要な知識** – Oracle Solaris システムの管理経験

製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E62101-01> で入手可能です。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお聞かせください。

JumpStart と自動インストーラの比較

この章では、JumpStart と Automated Installer (AI) の類似点と相違点について説明します。また、JumpStart から AI への移行に役立つソースも提供します。

JumpStart と AI の類似点と相違点

JumpStart と AI の両方とも、手入力なしでネットワーク上の複数のシステムのインストールを行うことができます。クライアントはネットワークブートされ、クライアントがブートすると、インストーラが引き継ぎます。

JumpStart は、Oracle Solaris 10 OS およびそれ以前の Oracle Solaris OS のバージョンをインストールします。AI は Oracle Solaris 11 OS と更新リリースをインストールします。

JumpStart と AI には、次の共通した特徴があります。

- システム構成をインストールサーバーに格納することで、手入力なしで複数のクライアントのネットワークインストールを行います。
- 1 回の自動インストールで、異なるクライアントに対して異なる種類のインストールを行います。
- x86 と SPARC の両方のクライアントをインストールします。

表 1 JumpStart と AI のタスクの比較

| 段階 | JumpStart | AI |
|----------------------|----------------------------------|---------------------------------------|
| インストールサーバーを設定します。 | setup_install_server コマンドを使用します。 | installadm create-service コマンドを使用します。 |
| インストールにクライアントを追加します。 | add_install_client コマンドを使用します。 | installadm create-client コマンドを使用します。 |
| 派生したプロファイルを作成します。 | 開始スクリプトを使用します。 | 派生したマニフェストメカニズムを使用します。 |
| インストール手順を指定します。 | プロファイルファイルを使用します。 | AI マニフェストファイルを使用します。 |

| 段階 | JumpStart | AI |
|----------------------|--|--|
| クライアントをプロビジョニングします。 | DVD を使用します。 | インターネットまたはローカルネットワーク上のパッケージリポジトリを使用します。 |
| クライアントのカスタマイズを指定します。 | ルールファイルを使用して、クライアントをプロファイルファイルに関連付けます。 | <code>installadm</code> コマンドの <code>create-manifest</code> 、 <code>create-profile</code> 、または <code>set-criteria</code> サブコマンドを使用して、クライアントを AI マニフェストおよびシステム構成プロファイルに関連付けます。 |
| クライアント構成を指定します。 | 終了スクリプトと <code>sysidcfg</code> ファイルを使用します。 | SMF (Oracle Solaris Service Management Facility) システム構成プロファイルを使用します。初回ブート時に 1 回実行される SMF サービスによって実行されるスクリプトを使用します。 |

JumpStart から AI への移行情報

JumpStart から AI へ移行する際、使用中の環境にとってどの経路が最適かは、使用できるリソースおよび AI クライアントをどの程度完全に構成するかによって異なります。より完全な AI クライアントの構成には、追加の手順が必要となる場合があります。Automated Installer の使用に移行する際に有用な戦略の一部を次に示します。

- **1 つのサーバーを JumpStart インストールサーバーおよび AI インストールサーバーの両方として使用します。**
この構成を使用すると、JumpStart 対応のシステムを Oracle Solaris 11 サーバーからサポートできます。詳細は、[第4章「Oracle Solaris 11 サーバー上の JumpStart を使用した Oracle Solaris 10 のインストール」](#)を参照してください。
- **AI インストール用のソフトウェアパッケージリポジトリを使用します。**
 - インターネット上にある Oracle Solaris 11 パッケージリポジトリを使用してください (pkg.oracle.com など)。
 - 『[Oracle Solaris 11.3 パッケージリポジトリのコピーと作成](#)』で説明されているとおり、パッケージリポジトリのローカルコピーを作成します。
- **カスタム ISO イメージを作成します。**
カスタムインストールイメージの作成については、『[Oracle Solaris 11.3 カスタムインストールイメージの作成](#)』を参照してください。
- **JumpStart ルール、プロファイル、および構成ファイルを AI 条件、AI マニフェスト、および SMF システム構成プロファイルに変換します。**
次のリソースは、JumpStart データを AI データに変換する手順を提供します。
 - [js2ai\(1M\)](#) のマニュアルページ
 - [第2章「JumpStart rules ファイルとプロファイルの変換」](#)
 - [第3章「sysidcfg 構成ファイルの変換」](#)
- **AI クライアントプロビジョニングマニフェストを動的に派生させます。**

JumpStart begin スクリプトは、インストーラに渡されるインストールパラメータを動的に操作する機能を提供します。AI は、クライアントのインストール時にクライアント属性を照会し、そのクライアント向けにカスタマイズされたプロビジョニングマニフェストを動的に派生させることができます。環境変数はクライアントのハードウェア属性を指定し、これらの属性のほとんどは、JumpStart begin スクリプトで使用される環境変数と同じです。『Oracle Solaris 11.3 システムのインストール』の「クライアントインストール時の AI マニフェストの作成」を参照してください

- **システム構成の指示を行います。**

SMF プロファイルの作成については、『Oracle Solaris 11.3 システムのインストール』の第 11 章, 「クライアントシステムの構成」を参照してください。

AI クライアントインストールの一部として非大域ゾーンをインストールするために AI マニフェストおよび SMF プロファイルを作成することについては、『Oracle Solaris 11.3 システムのインストール』の第 12 章, 「ゾーンのインストールと構成」を参照してください。

- **初回ブート時に 1 回実行してユーザー定義スクリプトを実行する SMF サービスを作成します。**

『Oracle Solaris 11.3 システムのインストール』の第 13 章, 「初回ブート時のカスタムスクリプトの実行」を参照してください。

JumpStart rules ファイルとプロファイルの変換

この章では、JumpStart rules およびプロファイルを AI 条件ファイルおよび AI マニフェストに変換する `js2ai` コマンドの使用方法を示します。

AI クライアントの条件および AI マニフェストについて

Automated Installer (AI) マニフェストは、ディスクレイアウトやインストールするソフトウェアパッケージなどのシステムプロビジョニングを指定する XML ファイルです。AI マニフェストについては、『[Oracle Solaris 11.3 システムのインストール](#)』の第 10 章、「[クライアントシステムのプロビジョニング](#)」および `ai_manifest(4)` のマニュアルページを参照してください。

AI はクライアント条件を使用して、クライアントシステムがインストールを完了するために使用する AI マニフェストを選択します。AI マニフェストが AI インストールサービスに追加されるとき、コマンド行またはファイルで条件を指定できます。AI 条件の指定の詳細は、『[Oracle Solaris 11.3 システムのインストール](#)』の第 9 章、「[インストールのカスタマイズ](#)」を参照してください。

rules ファイルのキーワードと AI 条件のキーワードの比較

次の表では、JumpStart rules ファイルのキーワードと AI 条件のキーワードを比較します。AI はこれらの条件を使用して、正しい AI マニフェストまたはシステム構成プロファイルを特定のクライアントに適用します。

表 2 JumpStart rules ファイルと AI 条件のキーワードの比較

| JumpStart rules ファイルのキーワード | AI 条件ファイルのキーワード | コマンド行の例 | 条件ファイルの例 |
|----------------------------|--|---|---|
| any | サポートされていません。 どの選択条件にも一致しないクライアントシステムの場合、AI インストールサービスはデフォルトの AI マニフェストを提供します。 | | |
| arch | cpu | -c cpu="sparc" | <ai_criteria name="cpu"> <value>sparc</value> </ai_criteria> |
| disksize | サポートされていません。 AI マニフェストで指定されたターゲットのディスクが最低限必要なサイズより大きい場合、AI はターゲット上にインストールします。 | | |
| domainname | サポートされていません。 | | |
| hostaddress | ipv4 | -c ipv4="10.6.68.127" | <ai_criteria name="ipv4"> <value>10.6.68.127</value> </ai_criteria> |
| hostname | サポートされていません。 AI でホストを一意に識別するには、hostaddress で説明した IP アドレスまたは MAC アドレスを使用します。 | -c mac="0:3:ba:33:9d:b6" | <ai_criteria name="mac"> <value>0:3:ba:33:9d:b6</value> </ai_criteria> |
| installed | サポートされていません。 AI マニフェストで指定されたターゲットのディスクが最低限必要なサイズより大きい場合、AI はターゲット上にインストールします。 | | |
| karch | arch | -c arch="i86pc" | <ai_criteria name="arch"> <value>i86pc</value> </ai_criteria> |
| memsize | mem | -c mem="2048" | <ai_criteria name="mem"> <value>2048</value> </ai_criteria> |
| model | platform | -c platform="SUNW,Sun-Fire-T200" | <ai_criteria name="platform"> <value>SUNW,Sun-Fire-T200</value> </ai_criteria> |
| network - ネットワークアドレス用 | 個々のネットワークアドレスまたは 1 つのネットワークアドレス内のアドレス範囲には、ipv4 を使用します | 単一のネットワークアドレス: -c ipv4="10.6.68.127" アドレスの範囲: -c ipv4="10.0.0.1-10.0.0.64" | 単一のネットワークアドレス: <ai_criteria name="ipv4"> <value>10.6.68.127</value> </ai_criteria> アドレスの範囲: <ai_criteria name="ipv4"> <range>10.0.0.1 10.0.0.64</range> </ai_criteria> |
| network - ネットワーク番号用 | 個々のネットワーク番号またはネットワーク番号の範囲 | 単一のネットワーク番号: -c network="10.0.0.0" | 単一のネットワーク番号: <ai_criteria name="network"> |

| JumpStart rules ファイルのキーワード | AI 条件ファイルのキーワード | コマンド行の例 | 条件ファイルの例 |
|----------------------------|--|--|--|
| | 囲には、network を使用します | ネットワークの範囲: -c network="10.0.0.0-12.0.0.0" | <value>10.0.0.0</value> </ai_criteria> ネットワークの範囲: <ai_criteria name="network"> <range> 10.0.0.0 12.0.0.0 </range> </ai_criteria> |
| osname | サポートされていません。 | | |
| probe | サポートされていません。 | | |
| totaldisk | サポートされていません。 AI マニフェストで指定されたターゲットのディスクが最低限必要なサイズより大きい場合、AI はターゲット上にインストールします。 | | |

プロファイルのキーワードと AI マニフェストの要素の比較

次の表では、JumpStart プロファイルのキーワードと AI マニフェストの要素を比較します。AI は、XML マニフェストファイルを使用してクライアントインストールを定義します。AI マニフェストについては、『Oracle Solaris 11.3 システムのインストール』の第 10 章、「クライアントシステムのプロビジョニング」および [ai_manifest\(4\)](#) のマニュアルページを参照してください。

any キーワードを使用して指定されるデバイスなど、クライアントのインストールプロセスが開始するまで不明な値を指定する場合、派生したマニフェストスクリプトの使用を検討してください。派生したマニフェストスクリプトを使用して、たとえばディスクサイズに基づいてスワップサイズを指定したり、使用可能なディスクに基づいてミラー化を指定したりできます。派生したマニフェストスクリプトについては、『Oracle Solaris 11.3 システムのインストール』の「クライアントインストール時の AI マニフェストの作成」を参照してください。

表 3 JumpStart プロファイルのキーワードと AI マニフェストの要素の比較

| JumpStart プロファイルのキーワード | AI マニフェストの要素 |
|------------------------|--|
| archive_location | サポートされていません。AI はフラッシュアーカイブからインストールしません。 |
| backup_media | サポートされていません。backup_media キーワードは install_type の upgrade オプションと一緒にのみ使用します。AI はアップグレードインストールタイプをサポートせず、初期インストールのみサポートします。 |
| boot_device device | 例: |

プロファイルのキーワードと AI マニフェストの要素の比較

| JumpStart プロファイルのキーワード | AI マニフェストの要素 |
|--|--|
| 例: boot_device c1t0d0 | <pre><target> <disk whole_disk="true"> <disk_name name="c1t0d0" name_type="ctd"/> </disk> <logical nodump="true" noswap="false"/> </target></pre> |
| boot_device device eeprom 例: boot_device c0t0d0s0 update | eeprom キーワードの値 (SPARC システムの場合は update、x86 システムの場合は preserve) は、AI ではサポートされていません。AI では、SPARC システムの EEPROM は、インストールしたシステムが指定したターゲットデバイスから自動的にブートするように、常にそのデバイスに更新されます。x86 システムでは、ファームウェアは更新されません。 |
| bootenv | サポートされていません。AI はブート環境を作成し、Oracle Solaris 11 OS をそのブート環境にインストールします。 |
| client_arch | サポートされていません。インストールされるクライアントアーキテクチャは AI マニフェストでなく AI インストールサービスによって定義されます。 |
| client_root | サポートされていません。ターゲットディスクの種類、ベンダー、およびサイズを指定できます。ターゲットディスクのルート領域の量は指定できません。ai_manifest(4) のマニュアルページを参照してください。 |
| client_swap | サポートされていません。デフォルトでは、AI はルートプールにスワップボリュームを作成します。スワップスライスを指定できます。ai_manifest(4) のマニュアルページを参照してください。 |
| cluster cluster-name | サポートされていません。cluster および package 指定の扱いについては、25 ページの「ソフトウェアパッケージの変換」を参照してください。 Oracle Solaris 11 OS は、pkg(5) のマニュアルページに定義されているグループパッケージを使用します。グループパッケージは、マニフェストでほかのパッケージを指定するようにして指定します。デフォルトの AI マニフェストには、標準の Oracle Solaris 11 インストールに必要なパッケージが含まれています。このパッケージリストはカスタマイズ可能です。 |
| cluster cluster-name delete | サポートされていません。delete スイッチは、install_type の upgrade オプションと一緒にのみ使用します。AI はアップグレードインストールタイプをサポートせず、初期インストールのみサポートします。 |
| dontuse | サポートされていません。 |
| fdisk disk-name type size 例: fdisk c0t3d0 solaris all | <pre><target> <disk> <disk_name name="c0t3d0" name_type="ctd"/> <partition action="create" name="1" part_type="191"/> </disk> <logical nodump="true" noswap="false"/> </target></pre> AI でサポートされているディスクおよびパーティション属性の完全な一覧については、ai_manifest(4) のマニュアルページを参照してください。 js2ai による変換: |

| JumpStart プロファイルのキーワード | AI マニフェストの要素 |
|--|--|
| | <p>js2ai 変換の場合、<i>disk_name</i> の値はデバイスにする必要があります。all のデバイスはサポートされていません。fdisk タイプは solaris にする必要があります。サイズ 0 または delete はサポートされていません。パーティション分割が default で、rootdisk が設定されていない場合、js2ai は最初に見つかった fdisk solaris パーティションをルートディスクとして設定します。</p> |
| <p>filesystem</p> | <p>UFS ファイルシステムはサポートされません。AI は ZFS ファイルシステムをインストールします。</p> <p>js2ai による変換:</p> <p>ルートに使用するデバイスを決定するための方法が他にない場合、filesystem の行で / のマウントポイントが付いたデバイスがルートプールとして使用されます。</p> <p>指定されたマウントポイントが / または swap の場合は、ローカルおよびミラー化されたファイルシステムがサポートされます。</p> <p>マウントポイントが / または swap でない場合、行はログに記録されて無視されます。JumpStart <i>fsoptions</i> はサポートされません。</p> <p>サイズの検証は実行されません。このマニフェストを使用して正しくインストールを行うには、生成された AI マニフェスト内で指定されるサイズを調整することが必要な場合があります。</p> |
| <p>例:</p> <p>filesystem c1t0d0s0 10000 /</p> | <p>次の AI マニフェストの一部は x86 プラットフォーム用のものです。</p> <pre data-bbox="711 974 1211 1262"><target> <disk> <disk_name name="c1t0d0" name_type="ctd"/> <partition action="create" name="1" part_type="191"> <slice action="create" force="true" in_vdev="rpool_vdev" in_zpool="rpool" name="0"> <size val="10000mb"/> </slice> </partition> </disk> <logical nodump="true" noswap="false"> <zpool is_root="true" name="rpool"> <vdev name="rpool_vdev" redundancy="none"/> </zpool> </logical> </target></pre> <p>js2ai による変換:</p> <p>js2ai コマンドでは、ルートファイルシステム (/) および swap の変換のみサポートします。</p> |
| <p>例:</p> <p>filesystem mirror:rpool c6t0d0s0 c6t1d0s0 60048 /</p> | <p>次の AI マニフェストの一部は x86 プラットフォーム用のものです。SPARC プラットフォームの場合、partition 要素は指定されません。</p> <pre data-bbox="711 1455 1211 1755"><target> <disk> <disk_name name="c6t1d0" name_type="ctd"/> <partition action="create" name="1" part_type="191"> <slice action="create" force="true" in_vdev="rpool_vdev" in_zpool="rpool" name="0"> <size val="60048mb"/> </slice> </partition> </disk> </target> <target> <disk> <disk_name name="c6t0d0" name_type="ctd"/> <partition action="create" name="1" part_type="191"> <slice action="create" force="true" in_vdev="rpool_vdev" in_zpool="rpool" name="0"> <size val="60048mb"/> </slice> </partition> </disk> </target></pre> |

プロファイルのキーワードと AI マニフェストの要素の比較

| JumpStart プロファイルのキーワード | AI マニフェストの要素 |
|-------------------------------------|---|
| | <pre> </partition> </disk> <logical nodump="true" noswap="false"> <zpool is_root="true" name="rpool"> <vdev name="rpool_vdev" redundancy="mirror"/> </zpool> </logical> </target> </pre> |
| filesystem server:path | サポートされていません。AI はリモートファイルシステムをサポートしません。 |
| forced_deployment | サポートされていません。AI はフラッシュアーカイブからインストールしません。 |
| geo | サポートされていません。AI では、言語サポート用の地理的地域はシステム構成プロファイルで指定されます。『Oracle Solaris 11.3 システムのインストール』の第 11 章、「クライアントシステムの構成」を参照してください。 |
| install_type | AI は initial_install のみサポートします。 |
| layout_constraint | サポートされていません。AI は initial_install のみサポートします。 |
| local_customization | サポートされていません。AI はフラッシュアーカイブからインストールしません。 |
| locale | サポートされていません。AI では、ロケールサポートはシステム構成プロファイルで指定されます。『Oracle Solaris 11.3 システムのインストール』の第 11 章、「クライアントシステムの構成」を参照してください。 |
| metadb | サポートされていません。 |
| no_content_check | サポートされていません。AI はフラッシュアーカイブからインストールしません。 |
| no_master_check | サポートされていません。AI はフラッシュアーカイブからインストールしません。 |
| num_clients | サポートされていません。 |
| package package | 例: |
| 例: | <pre> <software type="IPS"> <software_data action="install"> <name>pkg:/SUNWpampkcs11</name> </software_data> </software> </pre> |
| package SUNWpampkcs11 add | パッケージ名が有効であることを確認する方法については、25 ページの「ソフトウェアパッケージの変換」を参照してください。 |
| package package add nfs server:path | AI マニフェストでは、すべてのソフトウェアは IPS (Image Packaging System) パッケージリポジトリから取得されます。IPS リポジトリの場所は URL でもファイル名でも構いません。ソフトウェアソースとして複数の IPS リポジトリを指定できます。パブリッシャーの指定方法については、ai_manifest(4) のマニュアルページを参照してください。 js2ai による変換: js2ai コマンドは retrieval-type location 引数を無視します。 |
| package package delete | 例: <pre><software type="IPS"></pre> |

| JumpStart プロファイルのキーワード | AI マニフェストの要素 |
|--|--|
| | <pre data-bbox="711 369 1036 443"><software_data action="uninstall"> <name>pkg:/SUNWpampkcs11</name> </software_data> </software></pre> <p data-bbox="711 464 1377 512">AI は初期インストールのみサポートするため、パッケージを削除するために AI マニフェストを使用する必要はありません。</p> |
| <p data-bbox="199 527 431 552">partitioning default</p> <p data-bbox="199 573 443 598">partitioning explicit</p> | <p data-bbox="711 527 1393 625">ターゲットのインストールデバイスを指定しない場合、AI はデフォルトのインストールデバイスとデフォルトのパーティション分割を決定します。カスタムのパーティション分割を指定するには、ai_manifest(4) のマニュアルページを参照してください。</p> <p data-bbox="711 646 886 672">js2ai による変換:</p> <p data-bbox="711 693 1393 766">js2ai では、パーティション分割は default または explicit とする必要があります。explicit の場合、swap および / のみがサポートされません</p> |
| <p data-bbox="199 783 443 808">partitioning existing</p> | <p data-bbox="711 783 1393 831">サポートされていません。js2ai では、パーティション分割は default または explicit とする必要があります。</p> |
| <p data-bbox="199 846 264 871">patch</p> | <p data-bbox="711 846 1369 894">サポートされていません。AI は initial_install のみサポートします。</p> <p data-bbox="711 915 1393 963">システムまたは特定のパッケージを更新するには、インストールされたシステム上で pkg update コマンドを使用します。</p> |
| <p data-bbox="199 982 557 1008">pool newpool auto auto auto device</p> | <p data-bbox="711 982 743 1008">例:</p> <pre data-bbox="711 1020 1222 1272"><target> <disk> <disk_name name="c1t0d0" name_type="ctd"/> <partition action="create" name="1" part_type="191"> <slice action="create" force="true" in_vdev="rpool_vdev" in_zpool="newpool" name="0"/> </partition> </disk> <logical nodump="false" noswap="false"> <zpool is_root="true" name="newpool"> <vdev name="rpool_vdev" redundancy="none"/> </zpool> </logical> </target></pre> <p data-bbox="711 1293 886 1318">js2ai による変換:</p> <p data-bbox="711 1339 1393 1438">プロファイル内でプールが指定された場合、js2ai は指定されたデバイスを使用して ZFS ルートプールを作成します。ZFS ルートプールに使用するデバイスを js2ai が決定する際、pool キーワードが他のすべてのキーワードに優先されます。</p> <p data-bbox="711 1459 1393 1558">js2ai コマンドは、プールサイズ、スワップサイズ、またはダンプサイズの検証を一切実行しません。このマニフェストを使用したインストールに成功するには、生成された AI マニフェスト内のサイズを調整することが必要な場合があります。</p> |
| <p data-bbox="199 1581 467 1606">pool newpool auto auto auto any</p> | <p data-bbox="711 1581 1393 1698">js2ai で、物理デバイス名の代わりに any を指定する場合、any パラメータを含む指定よりも前にデバイス情報を提供しておく必要があります。たとえば、この pool 指定の前に root_device または usedisk 指定を行うことができます。例については、例6「mirrorpool.profileのエラーの修正」を参照してください。</p> |
| <p data-bbox="199 1717 431 1743">root_device c1t0d0s0</p> | <p data-bbox="711 1717 743 1743">例:</p> <pre data-bbox="711 1755 784 1780"><target></pre> |

| JumpStart プロファイルのキーワード | AI マニフェストの要素 |
|------------------------|---|
| | <pre><disk> <disk_name name="c1t0d0" name_type="ctd"/> <partition action="create" name="1" part_type="191"> <slice action="create" force="true" in_vdev="rpool_vdev" in_zpool="rpool" name="0"/> </partition> </disk> <logical nodump="true" noswap="false"> <zpool is_root="true" name="rpool"> <vdev name="rpool_vdev" redundancy="none"/> </zpool> </logical> </target></pre> <p>js2ai による変換:</p> <p>root_device が指定された場合、js2ai は指定されたデバイスに rootdisk を設定します。</p> |
| system_type | <p>AI マニフェストはシステムタイプを区別しません。</p> <p>js2ai による変換:</p> <p>値 standalone のみがサポートされています。</p> |
| usedisk | <p>js2ai による変換:</p> <p>js2ai コマンドは後続の any または rootdisk 指定を解決するために、指定された 1 つ以上のデバイスを使用する場合があります。指定されたがこの目的で使用されないデバイスは、ZFS ルートプールがミラー化されていない場合、js2ai によってこのプールに追加されます。</p> |

js2ai の使用による JumpStart rules ファイルおよびプロファイルから AI 条件およびマニフェストへの変換

js2ai コマンドで -r オプションを使用すると、JumpStart ルールおよび関連付けられたプロファイルが AI 条件およびマニフェストに変換されます。最初は -s オプションを使用して検証をスキップします。このコマンドは、rules ファイルおよび rules ファイルによって参照されるプロファイルで変換操作を実行します。

rules ファイルで参照される各プロファイルは、AI クライアントプロビジョニングマニフェスト (/usr/share/auto_install/manifest/default.xml) に対して処理されます。この段階では、JumpStart rules ファイルで指定されたプロファイルごとに、AI_profile-name という名前のディレクトリが作成されます。AI_profile_name ディレクトリには、このプロファイルを参照するルールに対応する AI 条件ファイルが criteria-rule-number.xml の形式で格納されます。また、AI_profile-name ディレクトリには、profile-name ファイルに対応する AI マニフェストファイルが profile-name.arch.xml の形式で格納されます。

変換が正しく完了したことを示すメッセージを受け取ったら、-s オプションを付けずに js2ai コマンドを実行して、出力された AI マニフェストを検証します。検証エラーは AI マニフェストファイル内で修正する必要があります。

変換が正常に完了したというメッセージが表示されない場合、エラーレポートおよび `js2ai.log` ファイルを調べます。エラーレポートおよびログファイルは、警告、処理エラー、サポートされない項目、変換エラー、および検証エラーを提供します。エラーレポートは `stdout` への表出力で、`rules` ファイルおよびプロファイルの変換中に発生したタイプごとのエラーの番号を示します。ログファイルには問題が記述されます。

1. 処理エラーを修正します。
2. `rules` ファイルおよびプロファイルから、サポート外項目として一覧表示されたすべての行を削除します。
3. 変換エラーを検査して、可能な場合はエラーを修正します。それ以外の場合は、エラーの原因となっている行を削除します。
4. 警告メッセージを検査して、修正が必要ないことを確認します。

`js2ai` コマンドの次のオプションを確認してください。

- ルールファイルまたはプロファイルの変換に関する詳細な情報を表示するには、`-v` オプションを使用します。詳細は、[36 ページの「追加のプロファイル変換情報の表示」](#)を参照してください。
- 個々の出力 AI マニフェストを適切な AI DTD に対して検証するには、`-v` オプションを使用します。詳細は、[36 ページの「出力 AI マニフェストの検証」](#)を参照してください。
- 1 つの JumpStart プロファイルのみを変換するには、`-p` オプションを使用します。[31 ページの「AI マニフェストファイルの修正」](#)の例を参照してください。

js2ai による JumpStart デバイス指定の変換方法

このセクションでは、`js2ai` が JumpStart プロファイル指定から AI マニフェスト用のターゲット要素を決定する方法について説明します。

システムのルートディスクを決定する方法

プロファイルの変換プロセス中、`js2ai` はプロファイルが参照するクライアントシステムにアクセスしないため、`js2ai` はできるかぎり JumpStart と一致するプロセスを使用して、変換中にルートディスクを決定しようとします。

`js2ai` コマンドは次の段階を実行して、ルートディスクに使用するデバイスを決定します。

1. プロファイルで `root_device` キーワードが指定されている場合、`js2ai` は `rootdisk` をスライスが存在するデバイスに設定します。

2. `rootdisk` が設定されておらず、プロファイルで `boot_device` キーワードが指定されている場合、`js2ai` は `rootdisk` をブートデバイスに設定します。
3. `rootdisk` が設定されておらず、`partitioning default` が指定され、`solaris fdisk` エントリが指定されている場合、`js2ai` は `rootdisk` を指定されたディスク名に設定します。
4. `rootdisk` が設定されておらず、プロファイルで `filesys cwtxdysz size /` エントリが指定されている場合、`js2ai` は `rootdisk` をそのエントリで指定された `cwtxdysz` ディスクに設定します。
5. `rootdisk` が設定されておらず、プロファイルで `usedisk disk-name` エントリが指定されている場合、`js2ai` は `rootdisk` をそのエントリで指定された `disk-name` ディスクに設定します。
6. `rootdisk` が設定されておらず、プロファイルで次の指定が見つかった場合 (`size` は 0 または `delete` でなく、`disk` は `all` でない)、`rootdisk` はこのディスク名に設定されます。

`fdisk disk-name solaris size`

7. `rootdisk` が設定されていない場合、デバイスが `rootdisk` として指定されたオカレンスで変換エラーが生成されます。

any キーワードが変換されるしくみ

`js2ai` コマンドは次の段階を実行して、`any` キーワードが指定されているときに使用するデバイスを決定します。

1. デバイスに `any` キーワードが指定されていて、キーワードアクション (ミラー化されていないプール、または / マウントポイントを使用した `filesys`) が指定されている場合、そのデバイスは `rootdisk` に設定されます (`rootdisk` が設定されている場合)。
2. デバイスが変換されておらず、`usedisk` 文がプロファイル内に存在する場合、`any` キーワードが指定されたデバイスは、`usedisk` 文で指定されたデバイスに設定されます。
3. デバイスが変換されておらず、`any` キーワードが指定されたアクションによって ZFS ルートプールが作成される場合、AI はそのデバイスを選択します (ただし、ミラープールが指定されている場合を除きます)。

ZFS ルートプールを決定する方法

`js2ai` コマンドは次のステップを実行して、ZFS ルートプールで使用するデバイスを決定します。ZFS ルートプールが決定されると、その後に検出される定義がすでに決

定されている ZFS ルートプールと競合する場合、エラーとしてフラグが設定されます。

1. プロファイルで `pool` キーワードが指定されている場合、`js2ai` は ZFS ルートプールを `pool` キーワードで指定されたデバイスに設定します。
2. ZFS ルートプールが決定されておらず、プロファイルでマウントポイント `/` を使用してファイルシステムが指定された場合、ZFS ルートプールは指定されたデバイスを使用して作成されます。
3. ZFS ルートプールが決定されておらず、プロファイル内のすべてのキーワードが処理され、`rootdisk` が設定されている場合、ZFS ルートプールは `rootdisk` デバイスを使用して作成されます。
4. ZFS ルートプールが決定されておらず、パーティションタイプが `default` の場合、AI は ZFS ルートプールで使用するデバイスを選択します。
5. ZFS ルートプールが決定されておらず、処理中にエラーが発生しなかった場合、AI は ZFS ルートプールで使用するデバイスを選択します。
6. ZFS ルートプールがミラー化されたプールではなく、指定された 1 つ以上の `usedisk` デバイスが `rootdisk` デバイスまたは `any` デバイスの変換で使用されていない場合、これらのディスクが ZFS ルートプールに追加されます。

ソフトウェアパッケージの変換

JumpStart プロファイルでは `cluster` および `package` キーワードを使用してソフトウェアをシステムにインストールします。`cluster` キーワードは AI ではサポートされません。IPS では、`incorporation` パッケージまたはグループパッケージをインストールするための構文は、その他のパッケージをインストールするための構文と同じなので、JumpStart プロファイルの `cluster` を `package` に変更するだけで、`js2ai` コマンドは、AI マニフェスト内に正しいパッケージインストール指定を作成します。

ヒント - AI マニフェスト内のパッケージ名を確認してください。AI マニフェスト内でインストール用に指定されたパッケージが、その AI マニフェスト内で指定されたもののパブリッシャー起点からも利用できない場合、クライアントインストールは失敗します。

IPS パッケージ名は SVR4 パッケージ名と異なります。たとえば、SVR4 パッケージ `SUNWpampkcs11` の名前は IPS 内で `library/security/pam/module/pam-pkcs11` に変更されます。

SVR4 パッケージ名が IPS 内に存在する場合は、SVR4 名を使用して IPS パッケージをインストールできます。たとえば、AI マニフェストで `SUNWpampkcs11` パッケージのインストールが指定された場合、`library/security/pam/module/pam-pkcs11` パッケージが自動的にインストールされます。この場合、パッケージの名前が変更されません。

SVR4 パッケージ名が IPS 内に存在しない場合は、パッケージ名を変更するか、その指定を AI マニフェストから削除する必要があります。たとえば、SUNWCall および SUNWCuser パッケージは IPS 内で名前変更されません。AI マニフェストでこれらのパッケージが指定された場合、インストールは失敗します。

AI マニフェスト内で特定のパッケージ名が使用できるかどうかを判断するには、Oracle Solaris 11 システムで `pkg list` コマンドを使用します。AI マニフェスト内で指定された IPS パッケージリポジトリ起点からのパッケージを一覧表示するための `-g` オプションを必ず使用してください。

js2ai コマンドは、JumpStart プロファイルからの指定を含む新規 AI マニフェストを構築するための基礎として、`/usr/share/auto_install/manifest/default.xml` AI マニフェストを使用します。このデフォルト AI マニフェストは、基本オペレーティングシステムをインストールする 2 つのパッケージ (`entire` および `solaris-large-server`) のインストールを指定します。これら 2 つのパッケージのほかは、おそらく追加のツールおよびアプリケーションのインストールを指定するだけで済みます。

例 1 パッケージ名が使用できるかどうかの確認

この例では、AI マニフェストは `http://pkg.oracle.com/solaris/release` リポジトリ起点を指定します。

```
$ pkg list -af -g http://pkg.oracle.com/solaris/release SUNWCall SUNWCuser
pkg list: no packages matching 'SUNWCuser, SUNWCall' known
```

このメッセージは、これら 2 つのパッケージがこの AI マニフェスト内で使用できないことを示しています。

例 2 名前が変更されたパッケージの操作

`pkg list` コマンドを使用して、名前が変更されたパッケージを特定できます。

```
$ pkg list -af -g http://pkg.oracle.com/solaris/release SUNWpampkcs11
NAME (PUBLISHER)                                VERSION                                IFO
SUNWpampkcs11                                   0.6.0-0.133                          --r
```

最後の列の「r」は、このパッケージの名前が変更されていることを示します。この名前を AI マニフェスト内で使用できますが、`pkg info` コマンドを使用してパッケージの新しい名前を決定した方がよい場合もあります。

次の出力の「Renamed to」行を参照してください。SUNWpampkcs11 パッケージの名前は `library/security/pam/module/pam-pkcs11` に変更されています。今後の Oracle Solaris 更新との互換性を高めるために、AI マニフェスト内で `library/security/pam/module/pam-pkcs11` を指定した方がよい場合もあります。

```
$ pkg info -r SUNWpampkcs11
Name: SUNWpampkcs11
```



```
consolidation/sfw/sfw-incorporation
Publisher: solaris
Version: 5.1.37
Build Release: 5.11
Branch: 0.133
Packaging Date: Wed Oct 27 18:49:18 2010
Size: 0.00 B
FMRI: pkg://solaris/SUNWmysql51@5.1.37,5.11-0.133:20101027T184918Z
```

js2ai を使用した rules ファイルおよびプロファイルの変換

このセクションでは、単一の js2ai コマンドの使用による、JumpStart rules ファイルおよびその rules ファイルによって参照されるすべてのプロファイルの変換を示します。デフォルトでは、変換された各プロファイルは、AI_profile-filename という名前のディレクトリに出力されます。そのプロファイルを選択するルールは、AI 基準ファイルと同じディレクトリに出力されます。

JumpStart rules ファイルとプロファイルの例

このセクションの例では、次の rules ファイルを使用します。

```
# The following rule matches only one system:
hostname sample_host - fdisk.profile -

# The following rule matches only one system:
hostaddress 10.6.68.127 - mirrorfilesys.profile -

# The following rule matches any system that is on the 924.222.43.0 network:
network 924.222.43.0 - rootdisk.profile -

# The following rule matches all x86 systems:
arch i386 - mirrorpool.profile -
```

fdisk.profile ファイルの内容は次のとおりです。

```
install_type initial_install
system_type server
root_device c1t0d0s0
usedisk c1t0d0
fdisk rootdisk solaris all
partitioning explicit
filesys rootdisk.s1 5000 swap
filesys rootdisk.s0 10000 /
cluster SUNWCall
```

mirrorfilesys.profile ファイルの内容は次のとおりです。

```
install_type initial_install
```

```
partitioning default
fileys mirror c6t0d0s0 c6t1d0s0 60048 /
cluster SUNWCuser
```

mirrorpool.profile ファイルの内容は次のとおりです。

```
install_type initial_install
partitioning default
pool newpool auto auto mirror any any
cluster SUNWCuser
```

rootdisk.profile ファイルの内容は次のとおりです。

```
install_type initial_install
partitioning explicit
fileys rootdisk.s0 15000 /
fileys rootdisk.s1 1000 swap
cluster SUNWCall
```

js2ai を使用して rules ファイルと関連プロファイル进行处理する

次のコマンドを使用して rules ファイル进行处理します。検証が実行されなかったため、エラーレポートでは検証エラーはハイフン文字として表示されます。検証は -S オプションによって抑制されます。

```
# js2ai -rS
```

| Name | Warnings | Process Errors | Unsupported Items | Conversion Errors | Validation Errors |
|----------------------|----------|----------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| rules | 0 | 0 | 1 | 0 | - |
| fdisk.profile | 0 | 0 | 2 | 0 | - |
| mirrorfileys.profile | 0 | 0 | 2 | 0 | - |
| mirrorpool.profile | 0 | 0 | 1 | 1 | - |
| rootdisk.profile | 0 | 0 | 1 | 2 | - |

Conversion completed. One or more failures and/or warnings occurred.

For errors see js2ai.log

```
# cat js2ai.log
```

```
rules:line 3:UNSUPPORTED: unsupported keyword: hostname
fdisk.profile:line 2:UNSUPPORTED: unsupported value for 'system_type' specified: server
fdisk.profile:line 9:UNSUPPORTED: unsupported keyword: cluster
mirrorfileys.profile:line 3:UNSUPPORTED: unsupported mount point of 'unnamed' specified,
mount points other than '/' and 'swap' are not supported
mirrorfileys.profile:line 4:UNSUPPORTED: unsupported keyword: cluster
mirrorpool.profile:line 3:CONVERSION: unable to convert 'any' device to physical device.
  Replace 'any'
with actual device name
mirrorpool.profile:line 4:UNSUPPORTED: unsupported keyword: cluster
rootdisk.profile:line 3:CONVERSION: unable to convert 'rootdisk.s0'.  Replace'rootdisk.'
  with actual
device name
rootdisk.profile:line 4:CONVERSION: unable to convert 'rootdisk.s1'.  Replace'rootdisk.'
  with actual
device name
rootdisk.profile:line 5:UNSUPPORTED: unsupported keyword: cluster
```

出力は、AI_profile-filename という名前のディレクトリに格納されます。JumpStart ルールから作成されたすべての AI 条件ファイルは、rules ファイル内の規則の位置から

名前が付けられます。AI マニフェストには `profile-filename.arch.xml` という名前が付けられ、`arch` は `generic`、`x86`、または `sparc` です。

```
# ls AI_*
AI_fdisk.profile:
fdisk.profile.x86.xml

AI_mirrorfilesys.profile:
criteria-2.xml      mirrorfilesys.profile.generic.xml

AI_mirrorpool.profile:
criteria-2.xml      mirrorpool.profile.generic.xml

AI_rootdisk.profile:
criteria-3.xml      rootdisk.profile.generic.xml
```

hostname キーワードの置換

ログファイルでは、JumpStart ルールキーワード `hostname` が、AI マニフェストを選択するための AI 条件キーワードとしてサポートされないと報告されています。`hostname` キーワードは、`fdisk.profile` プロファイルを使用するクライアントを指定します。`hostname` は AI マニフェストの選択でサポートされるキーワードではないため、新しい `AI_fdisk.profile` ディレクトリに AI 条件ファイルは含まれません。

この問題は、`rules` ファイル内で `hostname` を `hostaddress` に変更することによって修正できます。

この問題は、`hostname` システムを識別する MAC アドレスまたは IP アドレスを指定する AI 条件ファイルを作成することによっても修正できます。たとえば、`sample_host` の MAC アドレスが `0:14:4F:20:53:97` の場合、次の条件ファイルは JumpStart ルール `hostname sample_host` と同等です。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<ai_criteria_manifest>
  <ai_criteria name="mac">
    <value>0:14:4F:20:53:97</value>
  </ai_criteria>
</ai_criteria_manifest>
```

システムの MAC アドレスを確認するには、[dladm\(1M\)](#) のマニュアルページに説明されている `dladm` コマンドを使用します。

JumpStart ルール `hostaddress 10.6.68.127` について、`js2ai` コマンドは AI 条件ファイル `AI_mirrorfilesys.profile/criteria-2.xml` を自動的に作成し、JumpStart の `hostaddress` キーワードを AI の `ipv4` キーワードに置換します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<ai_criteria_manifest>
  <ai_criteria name="ipv4">
    <value>
      10.6.68.127
    </value>
  </ai_criteria>
```

```
</ai_criteria_manifest>
```

JumpStart ルール network 924.222.43.0 について、js2ai コマンドは AI 条件ファイル AI_rootdisk.profile/criteria-3.xml を自動的に作成し、指定されたネットワークアドレスに基づいて IP アドレスの範囲を指定します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<ai_criteria_manifest>
  <ai_criteria name="ipv4">
    <range>
      924.222.43.0 924.222.43.255
    </range>
  </ai_criteria>
</ai_criteria_manifest>
```

JumpStart ルール arch i386 について、js2ai コマンドは AI 条件ファイル AI_mirrorpool.profile/criteria-4.xml を自動的に作成し、JumpStart の arch キーワードを AI の cpu キーワードに置換します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<ai_criteria_manifest>
  <ai_criteria name="cpu">
    <value>
      i386
    </value>
  </ai_criteria>
</ai_criteria_manifest>
```

AI マニフェストファイルの修正

js2ai コマンドは通常、エラーが報告される場合であっても、JumpStart プロファイルごとに AI マニフェストを作成します。このセクションでは、出力される AI マニフェストがさらに完全になるようにするために、一部の一般的なエラーに対処する方法について説明します。

例 4 fdisk.profile のエラーの修正

js2ai コマンドが fdisk.profile JumpStart プロファイルについて次のエラーを表示しました。

```
fdisk.profile:line 2:UNSUPPORTED: unsupported value for 'system_type' specified: server
fdisk.profile:line 9:UNSUPPORTED: unsupported keyword: cluster
```

これら 2 つの行は無視され、出力 AI マニフェストに影響しません。変換でエラーメッセージを出さないようにする場合は、これら 2 つの行を削除できます。その結果、fdisk.profile ファイルの内容は次のようになります。

```
install_type initial_install
root_device c1t0d0s0
usedisk c1t0d0
fdisk rootdisk solaris all
partitioning explicit
fileSYS rootdisk.s1 5000 swap
fileSYS rootdisk.s0 10000 /
```

js2ai コマンドの `-p` オプションを使用して、このプロファイルのみ処理します。

```
# js2ai -p fdisk.profile
Successfully completed conversion
```

出力 AI マニフェスト `AI_fdisk.profile/fdisk.profile.x86.xml` の target スタンザには次の内容があります。

```
<target>
  <disk whole_disk="true">
    <disk_name name="c1t0d0" name_type="ctd"/>
    <partition action="create" name="1" part_type="191">
      <slice name="1" action="create" force="true" is_swap="true">
        <size val="5000mb"/>
      </slice>
      <slice name="0" action="create" force="true" in_zpool="rpool" in_vdev="rpool_vdev">
        <size val="10000mb"/>
      </slice>
    </partition>
  </disk>
  <logical noswap="false" nodump="true" >
    <zpool name="rpool" is_root="true">
      <vdev name="rpool_vdev" redundancy="none"/>
      <filesystem name="export" mountpoint="/export"/>
      <filesystem name="export/home"/>
      <be name="solaris"/>
    </zpool>
  </logical>
</target>
```

software スタンザは `/usr/share/auto_install/manifest/default.xml` 内のものと同じです。これは、このプロファイルにパッケージ指定が含まれていないためです。

例 5 mirrorfilesystem.profile のエラーの修正

js2ai コマンドが `mirrorfilesystem.profile` JumpStart プロファイルについて次のエラーを表示しました。

```
mirrorfilesystem.profile:line 3:UNSUPPORTED: unsupported mount point of 'unnamed' specified,
mount points other than '/' and 'swap' are not supported
mirrorfilesystem.profile:line 4:UNSUPPORTED: unsupported keyword: cluster
```

JumpStart プロファイルでは、`filesystem mirror` 指定の `file-system` パラメータは省略可能です。js2ai 変換では、`file_system` パラメータは省略できず、/ または `swap` の 2 つの値のいずれかを持つ必要があります。

`mirrorfilesystem.profile` ファイルを編集して、`filesystem` 指定の末尾に「/」を追加し、`cluster` 行を削除します。`mirrorfilesystem.profile` ファイルは次のような内容になります。

```
install_type initial_install
partitioning default
filesystem mirror c6t0d0s0 c6t1d0s0 60048 /
```

`AI_mirrorfilesystem.profile/criteria-2.xml` ファイルを別の場所に保存します。次に、js2ai コマンドの `-p` オプションを使用して、このプロファイルのみ処理します。


```
# js2ai -p mirrorfilesys.profile
Successfully completed conversion
```

AI_mirrorfilesys.profile ディレクトリには、mirrorfilesys.profile.sparc.xml および mirrorfilesys.profile.x86.xml の 2 つの出力 AI マニフェストが格納されています。これら 2 つの AI マニフェストの違いは、mirrorfilesys.profile.x86.xml には 2 つの partition 指定が含まれていることだけです。mirrorfilesys.profile.x86.xml マニフェストの target スタンザの内容は次のとおりです。

```
<target>
  <disk>
    <disk_name name="c6t1d0" name_type="ctd"/>
    <partition action="create" name="1" part_type="191">
      <slice action="create" force="true" in_vdev="rpool_vdev" in_zpool="rpool" name="0">
        <size val="60048mb"/>
      </slice>
    </partition>
  </disk>
  <disk>
    <disk_name name="c6t0d0" name_type="ctd"/>
    <partition action="create" name="1" part_type="191">
      <slice action="create" force="true" in_vdev="rpool_vdev" in_zpool="rpool" name="0">
        <size val="60048mb"/>
      </slice>
    </partition>
  </disk>
  <logical noswap="false" nodump="false" >
    <zpool name="newpool" is_root="true">
      <vdev name="rpool_vdev" redundancy="mirror"/>
      <filesystem name="export" mountpoint="/export"/>
      <filesystem name="export/home">
        <be name="solaris">
      </zpool>
    </logical>
  </target>
```

software スタンザは /usr/share/auto_install/manifest/default.xml 内のものと同じです。これは、このプロファイルにパッケージ指定が含まれていないためです。

例 6 mirrorpool.profile のエラーの修正

js2ai コマンドが mirrorpool.profile JumpStart プロファイルについて次のエラーを表示しました。

```
mirrorpool.profile:line 4:CONVERSION: unable to convert 'any' device to physical device.
Replace 'any' with actual device name
mirrorpool.profile:line 8:UNSUPPORTED: unsupported keyword: cluster
```

これらのエラーを修正するには、次の 2 つの方法のいずれかを使用します。これらの修正は、両方ともまったく同じ AI マニフェスト出力を生成します。24 ページの「any キーワードが変換されるしくみ」も参照してください。

- mirrorpool.profile プロファイルを編集し、any エントリを物理デバイス名で置換します。また、cluster 行を削除します。その結果、mirrorpool.profile ファイルの内容は次の例のようになります。

```
install_type initial_install
partitioning default
pool newpool auto auto auto mirror c6t0d0s0 c6t1d0s0
```

- pool 指定の vdev-list 一覧に、物理デバイス名でなく any を指定した場合、any パラメータを含む指定よりも前にデバイス情報を提供しておく必要があります。mirrorpool.profile プロファイルを編集して、プール指定の前に usedisk 指定を追加します。また、cluster 行を削除します。その結果、mirrorpool.profile ファイルの内容は次の例のようになります。

```
install_type initial_install
partitioning default
usedisk c6t0d0 c6t1d0
pool newpool auto auto auto mirror any any
```

AI_mirrorpool.profile/criteria-4.xml ファイルを別の場所に保存します。次に、js2ai コマンドの -p オプションを使用して、このプロファイルのみ処理します。

```
# js2ai -p mirrorpool.profile
Successfully completed conversion
```

AI_mirrorpool.profile ディレクトリには、mirrorpool.profile.sparc.xml および mirrorpool.profile.x86.xml の 2 つの出力 AI マニフェストが格納されています。これら 2 つの AI マニフェストの違いは、mirrorpool.profile.x86.xml には 2 つの partition 指定が含まれていることだけです。mirrorpool.profile.x86.xml マニフェストの target スタンザの内容は次のとおりです。

```
<target>
  <disk>
    <disk_name name="c6t1d0" name_type="ctd"/>
    <partition action="create" name="1" part_type="191">
      <slice action="create" force="true" in_vdev="rpool_vdev" in_zpool="newpool" name="0"/>
    >
  </partition>
</disk>
  <disk>
    <disk_name name="c6t0d0" name_type="ctd"/>
    <partition action="create" name="1" part_type="191">
      <slice action="create" force="true" in_vdev="rpool_vdev" in_zpool="newpool" name="0"/>
    >
  </partition>
</disk>
  <logical noswap="false" nodump="true">
    <zpool name="rpool" is_root="true">
      <vdev name="rpool_vdev" redundancy="mirror"/>
      <filesystem name="export" mountpoint="/export"/>
      <filesystem name="export/home">
        <be name="solaris">
      </zpool>
    </logical>
  </target>
```

software スタンザは /usr/share/auto_install/manifest/default.xml 内のものと同じです。これは、このプロファイルにパッケージ指定が含まれていないためです。

例 7 rootdisk.profile のエラーの修正

js2ai コマンドが rootdisk.profile JumpStart プロファイルについて次のエラーを表示しました。

```
rootdisk.profile:line 3:CONVERSION: unable to convert 'rootdisk.s0'.
Replace'rootdisk.' with actual device name
rootdisk.profile:line 4:CONVERSION: unable to convert 'rootdisk.s1'.
Replace'rootdisk.' with actual device name
rootdisk.profile:line 5:UNSUPPORTED: unsupported keyword: cluster
```

これらのエラーを修正するには、次の 2 つの方法のいずれかを使用します。これらの修正は、両方ともまったく同じ AI マニフェスト出力を生成します。

- rootdisk.profile プロファイルを編集し、rootdisk. を c0t0d0 で置換します。また、cluster 行を削除します。rootdisk.profile ファイルは次のような内容になります。

```
install_type initial_install
partitioning explicit
filesystems c0t0d0s0 15000 /
filesystems c0t0d0s1 1000 swap
```

- rootdisk.profile プロファイルを編集して root_device 指定を追加し、cluster 行を削除します。rootdisk.profile ファイルは次のような内容になります。

```
install_type initial_install
partitioning explicit
root_device c0t0d0s0
filesystems rootdisk.s0 15000 /
filesystems rootdisk.s1 1000 swap
```

AI_rootdisk.profile/criteria-3.xml ファイルを別の場所に保存します。次に、js2ai コマンドの -p オプションを使用して、このプロファイルのみ処理します。

```
# js2ai -p rootdisk.profile
Successfully completed conversion
```

AI_rootdisk.profile ディレクトリには、rootdisk.profile.sparc.xml および rootdisk.profile.x86.xml の 2 つの出力 AI マニフェストが格納されています。これら 2 つの AI マニフェストの違いは、rootdisk.profile.x86.xml に partition 指定が含まれていることです。rootdisk.profile.x86.xml マニフェストの target スタンザの内容は次のとおりです。

```
<target>
  <disk>
    <disk_name name="c0t0d0" name_type="ctd"/>
    <partition action="create" name="1" part_type="191">
      <slice action="create" force="true" in_vdev="rpool_vdev" in_zpool="rpool" name="0">
        <size val="15000mb"/>
      </slice>
      <slice action="create" force="true" is_swap="true" name="1">
        <size val="1000mb"/>
      </slice>
    </partition>
  </disk>
</target>
```

```

        </slice>
    </partition>
</disk>
<logical noswap="false" nodump="true" noswap="false">
  <zpool name="rpool" is_root="true" >
    <vdev name="rpool_vdev" redundancy="none"/>
    <filesystem name="export" mountpoint="/export"/>
    <filesystem name="export/home">
      <be name="solaris">
    </zpool>
  </logical>
</target>

```

software スタンザは /usr/share/auto_install/manifest/default.xml 内のものと同じです。これは、このプロファイルにパッケージ指定が含まれていないためです。

追加のプロファイル変換情報の表示

ルールまたはプロファイル変換あるいは AI マニフェスト検証に関する追加情報を表示するには、js2ai コマンドに -v オプションを指定します。-v オプションを指定すると、処理手順が表示され、エラーレポートでは rules ファイルまたはプロファイルをレポートから省略する代わりにゼロが表示されます。

```

# js2ai -v -p rootdisk.profile
Processing profile: rootdisk.profile
Performing conversion on: rootdisk.profile
Generating x86 manifest for: rootdisk.profile
Validating rootdisk.profile.x86.xml
Generating sparc manifest for: rootdisk.profile
Validating rootdisk.profile.sparc.xml

```

| Name | Warnings | Process Errors | Unsupported Items | Conversion Errors | Validation Errors |
|------------------|----------|----------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| rootdisk.profile | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

Successfully completed conversion

出力 AI マニフェストの検証

js2ai コマンドを実行した結果得られる AI マニフェストを検証するには、-v オプションを使用します。

```

# js2ai -V ./AI_rootdisk.profile/rootdisk.profile.sparc.xml
Successfully completed conversion
# js2ai -v -V ./AI_rootdisk.profile/rootdisk.profile.sparc.xml
Validating rootdisk.profile.sparc.xml

```

| Name | Warnings | Process Errors | Unsupported Items | Conversion Errors | Validation Errors |
|------------------------|----------|----------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| rootdisk.profile.sparc | - | - | - | - | 0 |

Successfully completed conversion

sysidcfg 構成ファイルの変換

この章では、sysidcfg ファイルを AI システム構成プロファイルに変換する方法を示します。変換の大部分は、js2ai コマンドを使用して実行できます。js2ai コマンドの詳細については、[js2ai\(1M\)](#)のマニュアルページを参照してください。

AI システム構成プロファイルは、システム構成を指定する SMF XML プロファイルです。AI システム構成プロファイルについては、『[Oracle Solaris 11.3 システムのインストール](#)』の第 11 章、「クライアントシステムの構成」を参照してください。

sysidcfg キーワードとシステム構成プロファイルディレクティブの比較

次の表では、sysidcfg ファイルのキーワードと AI システム構成プロファイル指定の例を比較します。異なる場合では、異なる SMF プロパティ値が適用されることもあります。41 ページの「[js2ai を使用した sysidcfg の変換](#)」および『[Oracle Solaris 11.3 システムのインストール](#)』の「[システム構成プロファイルの例](#)」の例を参照してください。

表 4 sysidcfg キーワードと構成プロファイルディレクティブの比較

| sysidcfg キーワード | システム構成プロファイルの指令 |
|----------------|--|
| keyboard | js2ai コマンドは変換を実行しません。sysidcfg ファイルで指定されたキーボードが Oracle Solaris 11 でサポートされていることを確認してください。 サービス名: system/keymap プロパティグループ名: keymap プロパティ値名: layout |
| name_service | AI は、DNS、NIS、および LDAP をサポートしています。js2ai コマンドは NONE、DNS、NIS、および LDAP の値をサポートします。NIS+ ネームサービスは NIS として変換されます。ネームサービスが構成されている場合は、ネットワークを DefaultFixed として構成する必要があります。 サービス名: system/name-service/switch プロパティグループ名: config |

| sysidcfg キーワード | システム構成プロファイルの指令 |
|-------------------|---|
| | プロパティ値名: netgroup |
| network_interface | <p>AI は、システムインストールの一環として、単一インタフェースのみの構成をサポートします。この制限のため、js2ai コマンドは PRIMARY という名前のインタフェースまたは sysidcfg ファイル内で見つけた最初のインタフェースのみを処理します。name_service が指定されている場合、js2ai コマンドはネットワークを DefaultFixed に設定します。適切に構成された DefaultFixed ネットワークは、ホスト名、IP アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイを提供する必要があります。自動ネットワーク構成は、ネームサービスが指定されていない場合にのみサポートされます。</p> <p>Oracle Solaris では、デフォルトでリンク名の割り当て時に接頭辞 net が使用されます。(Oracle Solaris 10 の古いスタイルは使用できますが、デフォルトでは無効になっています。)js2ai コマンドがネットワークインタフェースの変換を行い Oracle Solaris 10 スタイルのリンク名を確認すると、コマンドはニュートラルリンク名を無効にします。Oracle Solaris 11 でニュートラルリンク名を使用するには、sysidcfg ファイルに指定されたネットワークインタフェース名を net0 などの Oracle Solaris ニュートラルリンク名に変更する必要があります。ニュートラルリンク名についての詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークコンポーネントの構成と管理』の「Oracle Solaris のネットワークデバイスとデータリンク名」を参照してください。</p> <p>サービス名: network/install プロパティグループ名: install_ipv4_interface プロパティ値名: static_address プロパティグループ名: install_ipv6_interface</p> |
| nfs4_domain | <p>nfs4_domain=dynamic は、Automatic ネットワークおよび DefaultFixed ネットワークについてサポートされています。networks.nfs4_domain=custom-domain-name は DefaultFixed ネットワークでのみサポートされています。network_interface キーワードの変換によって、DefaultFixed または Automatic のどちらのネットワークが構成されるかが決まります。</p> <p>サービス名: network/nfs/mapid プロパティグループ名: nfs-props プロパティ値名: nfsmapid_domain</p> |
| root_password | <p>Oracle Solaris 11 では、root ユーザーの代わりに役割を使用します。マルチユーザーモードでシステムにアクセスするには、root 役割特権を持つユーザーを定義する必要があります。必要な構造体を root_password キーワードで完全に定義できないため、root 役割特権を持つユーザーアカウントを定義するために使用される必要な構造体を sc_profile.xml ファイルにコメントとして追加する必要があります。root_password キーワードを指定しない場合は、それに代わる必要なデータ構造体をコメントとして定義する必要があります。</p> <p>サービス名: system/config-user プロパティグループ名: root_account プロパティ値名: password</p> |
| security_policy | js2ai コマンドは値 NONE をサポートします。 |
| service_profile | js2ai ツールは値 limited_net をサポートします。 |
| system_locale | <p>js2ai コマンドは、指定されたロケールが、サポートされているデフォルトコアロケールの 1 つであるかどうかを確認し、ロケールがサポートされていない場合は警告を生成します。js2ai コマンドは、非コアロケールからコアロケールへの変換も試みます。</p> <p>コアロケールの詳細については、『Oracle Solaris 10 から Oracle Solaris 11.3 への移行』の「国際化とローカリゼーションの変更」を参照してください。</p> <p>サービス名: system/environment プロパティグループ名: environment</p> |

| sysidcfg キーワード | システム構成プロファイルの指令 |
|----------------|--|
| | プロパティ値名: LC_ALL |
| terminal | js2ai コマンドは変換を実行しません。sysidcfg ファイルで指定された端末タイプが Oracle Solaris 11 でサポートされていることを確認してください。 サービス名: system/console-login プロパティグループ名: ttymon プロパティ値名: terminal_type |
| timeserver | js2ai コマンドは値 localhost をサポートします。 |
| timezone | js2ai コマンドは変換を実行しません。 サービス名: system/timezone プロパティグループ名: timezone プロパティ値名: localtime |

js2ai を使用した sysidcfg ファイルからシステム構成プロファイルへの変換

js2ai コマンドに `-s` オプションを指定して使用して、この JumpStart 構成に関連付けられた sysidcfg ファイルをシステム構成プロファイルに変換します。最初は `-s` オプションを使用して検証をスキップします。

js2ai は、処理された sysidcfg ファイルごとに、js2ai コマンドが起動されたディレクトリ内に `sc_profile.xml` という名前の AI システム構成プロファイルを作成します。sc_profile.xml ファイルに別のディレクトリを指定するには、`-D` オプションを使用します。

変換が正しく完了したことを示すメッセージを受け取ったら、`-s` オプションを付けずに js2ai コマンドを実行して、出力された `sc_profile.xml` ファイルを検証します。検証エラーは `sc_profile.xml` ファイル内で修正する必要があります。

変換が正常に完了したというメッセージが表示されない場合、エラーレポートおよび `js2ai.log` ファイルを調べます。エラーレポートおよびログファイルは、警告、処理エラー、サポートされない項目、変換エラー、および検証エラーを報告します。エラーレポートは `stdout` への表出力で、sysidcfg ファイルの変換中に発生したタイプごとのエラーの番号を示します。ログファイルには問題が記述されます。

1. 処理エラーを修正します。
2. sysidcfg ファイルから、サポート外項目として一覧表示されたすべての行を削除します。
3. 変換エラーを検査して、可能な場合はエラーを修正します。それ以外の場合は、エラーの原因となっている行を削除します。
4. 警告メッセージを検査して、修正が必要ないことを確認します。

変換について詳細な情報を表示するには、js2ai コマンドに `-v` オプションを付けて使用します。詳細は、[43 ページの「詳細な構成変換情報の表示」](#) を参照してください。

特定の出力システム構成プロファイルを検証するには、`-v` オプションを付けて js2ai コマンドを実行します。[43 ページの「出力システム構成プロファイルの検証」](#) の例を参照してください。

```
# js2ai -v path/sc_profile.xml
```

js2ai 変換の警告

js2ai で sysidcfg ファイルを変換すると、必ず次の警告が生成されます。

```
sysidcfg:line #:WARNING: Oracle Solaris 11 uses roles instead of root user. An admin user with root role privileges will need to be defined in order to access the system in multi-user mode. The necessary xml structures have been added to sc_profile.xml as a comment. Edit sc_profile.xml to perform the necessary modifications to define the admin user.
```

この警告は、js2ai コマンドが、`root_passwd` キーワードだけでは必要なデータ構造を生成できないことに関係があります。sysidcfg ファイルに `root_passwd` キーワードが含まれている場合、js2ai は、次のような `system/config-user` 構造体を生成します。

```
<service name="system/config-user" type="service" version="1">
  <instance enabled="true" name="default">
    <!--
    Configures user account as follows:
    * User account name 'jack'
    * password 'jack'
    * GID 10
    * UID 101
    * root role
    * bash shell
    -->
    <!--
    <property_group name="user_account" type="application">
      <propval name="login" type="astring" value="jack"/>
      <propval name="password" type="astring" value="9Nd/cwBcNWFZg"/>
      <propval name="description" type="astring" value="default_user"/>
      <propval name="shell" type="astring" value="/usr/bin/bash"/>
      <propval name="gid" type="astring" value="10"/>
      <propval name="uid" type="astring" value="101"/>
      <propval name="type" type="astring" value="normal"/>
      <propval name="roles" type="astring" value="root"/>
      <propval name="profiles" type="astring" value="System Administrator"/>
      <propval name="sudoers" type="astring" value="ALL=(ALL) ALL"/>
    </property_group>
    -->
    <property_group name="root_account" type="application">
      <propval name="login" type="astring" value="root"/>
      <propval name="password" type="astring" value="{your_root_passwd}"/>
      <propval name="type" type="astring" value="role"/>
    </property_group>
  </instance>
```



```
</service>
```

XML では、コメントは `<!--` で始まります。Oracle Solaris 11 をサポートするために必要なユーザーを定義するには、`user_account` プロパティグループ構造体を囲む XML コメントマーカを削除します。次に、`user_account` プロパティグループ構造体を変更し、`root` 役割特権を持つユーザーを作成します。`root_password` キーワードを指定しなかった場合は、`root_account` プロパティグループ構造体をコメントにします。

js2ai を使用した sysidcfg の変換

このセクションでは、`js2ai` を使用して `sysidcfg` ファイルを AI システム構成プロファイルに変換する方法を示します。`js2ai` は、処理された `sysidcfg` ファイルごとに、`js2ai` コマンドが起動されたディレクトリ内に `sc_profile.xml` という名前の AI システム構成プロファイルを作成します。`sc_profile.xml` ファイルに別のディレクトリを指定するには、`-D` オプションを使用します。変換プロセスに役に立つように、元の `sysidcfg` ファイルのコピーを作成し、コピーを使用します。変換プロセスでは、`sysidcfg` ファイルを編集および変更しないと、ファイルを正しく変換できない場合があります。

例 8 エラーを含む sysidcfg ファイルの変換

この例では、次の `sysidcfg` ファイルを使用します。

```
timezone=US/Pacific
timeserver=localhost
keyboard=US-English
system_locale=en_US.UTF-8
terminal=vt100
network_interface=primary { hostname=host1
    ip_address=192.0.2.4
    netmask=255.255.255.224
    protocol_ipv6=yes
    default_route=192.0.2.3 }
name_service=DNS{domain_name=example.com
    name_server=192.0.2.1,192.0.2.2
    search=example.com,example.org}
root_password=rJmv5LUXM10cU
security_policy=none
nfs_domain=dynamic
```

次のコマンドを使用して、この `sysidcfg` ファイルを処理します。`-s` オプションによって検証を抑制したため、エラーレポートでは、検証エラーはハイフン文字として表示されます。

```
# js2ai -sS
```

| Name | Warnings | Process Errors | Unsupported Items | Conversion Errors | Validation Errors |
|----------|----------|----------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| sysidcfg | 1 | 0 | 0 | 1 | - |

Conversion completed. One or more failures and/or warnings occurred.

```
For errors see js2ai.log
# cat js2ai.log

sysidcfg:line 6:CONVERSION: DefaultFixed network configuration enabled.
Unable to complete network configuration, replace interface PRIMARY
with the actual interface you wish to configure.
sysidcfg:line 17:WARNING: Oracle Solaris 11 uses roles instead of root user.
An admin user with root role privileges will need to be defined in order to
access the system in multi-user mode. The necessary xml structures have been
added to sc_profile.xml as a comment. Edit sc_profile.xml to perform the
necessary modifications to define the admin user.
```

例 9 修正された sysidcfg ファイルの変換

次に示す変更された sysidcfg ファイルは、前の例で報告されたエラーに対処します。PRIMARY インタフェース指定はインタフェース名 e1000g で置換されています。

```
timezone=US/Pacific
timeserver=localhost
keyboard=US-English
system_locale=en_US.UTF-8
terminal=vt100
network_interface=e1000g { hostname=host1
    ip_address=192.0.2.4
    netmask=255.255.255.224
    protocol_ipv6=yes
    default_route=192.0.2.3 }
name_service=DNS{domain_name=example.com
    name_server=192.0.2.1,192.0.2.2
    search=example.com,example.org}
root_password=rJmv5LUXM10cU
security_policy=none
nfs_domain=dynamic
```

```
# js2ai -sS
```

| Name | Warnings | Process Errors | Unsupported Items | Conversion Errors | Validation Errors |
|----------|----------|----------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| sysidcfg | 2 | 0 | 0 | 0 | - |

```
Conversion completed. One or more failures and/or warnings occurred.
For details see /tmp/js2ai.log
```

```
# cat js2ai.log
sysidcfg:line 16:WARNING: Oracle Solaris 11 uses roles instead of root user.
An admin user with root role privileges will need to be defined in order to
access the system in multi-user mode. The necessary xml structures have been
added to sc_profile.xml as a comment. Edit sc_profile.xml to perform the
necessary modifications to define the admin user.
sysidcfg:line 6:WARNING: In order to support the direct translation of the
sysidcfg interface 'e1000g', Oracle Solaris 11 neutral link name support will
be disabled. If you wish to use neutral link names, change the interface
name specified in the sysidcfg file to a 'netx' style interface name or edit
the resulting sc_profile.xml file.
```

ネットワークインタフェース primary は Oracle Solaris 10 インタフェース名で置換されていますが、ニュートラルリンク名に関する警告が引き続き表示されます。従来のリンク名を使用する場合は、必要なアクションはありません。ほとんどの場合、インタフェースは Oracle Solaris 10 の場合と同じようにマップされますが、必ずそうなるという保証はありません。

Oracle Solaris 11 によって使用されるニュートラルリンク名を使用する場合は、sysidcfg ファイルのネットワークインタフェースを netn という形式の名前に変更します。通常、プライマリインタフェースは net0 として定義されます。ユーザー警告に対処するには、js2ai.log ファイルに示される概要に応じて sc_profile.xml ファイルを編集します。

詳細な構成変換情報の表示

sysidcfg ファイル変換またはシステム構成プロファイルの検証に関する追加情報を表示するには、js2ai コマンドに -v オプションを指定します。-v オプションを指定すると、処理段階が表示されます。

```
# js2ai -sv
Processing: sysidcfg
Performing conversion on: sysidcfg
Generating SC Profile
Validating sc_profile.xml
```

| Name | Warnings | Process Errors | Unsupported Items | Conversion Errors | Validation Errors |
|----------|----------|----------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| sysidcfg | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |

Conversion completed. One or more failures and/or warnings occurred.
For details see /tmp/js2ai.log

出力システム構成プロファイルの検証

js2ai コマンドを実行した結果得られるシステム構成プロファイルを検証するには、-v オプションを使用します。

```
# js2ai -v -v ./sc_profile.xml
Validating sc_profile.xml
```

| Name | Warnings | Process Errors | Unsupported Items | Conversion Errors | Validation Errors |
|------------|----------|----------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| sc_profile | - | - | - | - | 0 |

Successfully completed conversion

Oracle Solaris 11 サーバー上の JumpStart を使用した Oracle Solaris 10 のインストール

JumpStart を使用して Oracle Solaris 10 オペレーティングシステムをネットワーク上の SPARC および x86 プラットフォームにインストールすることはできますが、Oracle Solaris 11 OS をインストールすることはできません。ただし、JumpStart インストールサーバーを Oracle Solaris 11 システムにすることはできます。

Oracle Solaris 11 サーバーは、次の 2 つの異なるジョブを実行します。

- Automated Installer を使用して Oracle Solaris 11 OS のインストールを実行します。詳細は、『[Oracle Solaris 11.3 システムのインストール](#)』のパート III, 「[インストールサーバーを使用したインストール](#)」を参照してください。
- JumpStart を使用して Oracle Solaris 10 OS のインストールを実行します。この章では、Oracle Solaris 11 システム上に JumpStart インストールサーバーを設定する方法を説明します。JumpStart の詳細は、『[Oracle Solaris 10 1/13 Installation Guide: Live Upgrade and Upgrade Planning](#)』を参照してください。

Oracle Solaris 10 JumpStart サーバーとしての Oracle Solaris 11 システムの設定

次の手順では、Oracle Solaris 11 JumpStart インストールサーバーを作成して、Oracle Solaris 10 OS をクライアントシステム上にインストールする方法を示します。

▼ Oracle Solaris 10 JumpStart サーバーとして Oracle Solaris 11 システムを設定する方法

1. Oracle Solaris 11 OS をインストールします。
2. 静的 IP アドレスを設定します。

静的 IP アドレスを設定する方法の詳細は、『Oracle Solaris 11.3 でのネットワークコンポーネントの構成と管理』の「IPv4 インタフェースを構成する方法」および `ipadm(1M)` のマニュアルページに記載されている手順を参照してください。

3. `system/boot/network` パッケージを `solaris` パブリッシャーからインストールします。

```
# pkg publisher
PUBLISHER          TYPE    STATUS  URI
solaris            origin online  http://pkg.oracle.com/solaris/release/
# pkg install pkg:/system/boot/network
Packages to install: 1
Variants/Facets to change: 3
Create boot environment: No
Create backup boot environment: No
Services to change: 1

DOWNLOAD          PKGS     FILES   XFER (MB)
Completed         1/1      13/13   0.0/0.0

PHASE              ACTIONS
Install Phase     34/34

PHASE              ITEMS
Package State Update Phase 1/1
Image State Update Phase   2/2

PHASE              ITEMS
Reading Existing Index     8/8
Indexing Packages         1/1
```

4. 最新の Oracle Solaris 10 DVD イメージをダウンロードします。

現在のイメージは <http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris10/downloads/index.html> にあります。このイメージは、インストールイメージおよび JumpStart ツールのソースです。JumpStart は、Oracle Solaris 10 OS をインストールするときのみ使用でき、Oracle Solaris 11 OS のインストールには使用できません。

5. JumpStart インストールサーバーを設定します。

次の例では、Oracle Solaris 10 1/13 の SPARC 用 DVD イメージを使用しています。

```
# /media/SOL_10_0113_SPARC/Solaris_10/Tools/setup_install_server /export/s10u11_sparc
Verifying target directory...
Calculating the required disk space for the Solaris_10 product
Calculating space required for the installation boot image
Copying the CD image to disk...
Copying Install Boot Image hierarchy...
Copying /boot netboot hierarchy...
Install Server setup complete
```

6. `jumpstart_sample` ファイルを JumpStart プロファイルの場所にコピーします。

```
# cd /media/SOL_10_0113_SPARC/Solaris_10/Misc/jumpstart_sample
# mkdir -p /export/profiles/s10profile
# cp -pr * /export/profiles/s10profile
```

7. check スクリプトを更新します。

/export/profile/s10profile/check スクリプトの 1 行目を次の行で置換します。

```
#!/usr/sunos/bin/sh
```

8. JumpStart プロファイルを検証します。

次の例では、簡潔に示すために多くの出力行が省略されています。-p オプションはすべての Oracle Solaris 10 更新リリースで機能するとは限りません。少なくとも Oracle Solaris 10 Update 7 を使用していることを確認してください。

```
# cd /export/profile/s10profile
# ./check -p /export/s10u11_sparc
45 blocks
Validating rules...
Validating profile host_class...
Validating profile zfsrootsimple...
Validating profile net924_sun4c...
Validating profile upgrade...
Validating profile x86-class...
Validating profile any_machine...
The custom JumpStart configuration is ok.
```

9. udp6 が使用可能でオンラインであることを確認します。

udp6 サービスは、tftp パッケージで配信されます。tftp パッケージがインストールされていることを確認してください。

```
# pkg list tftp
```

tftp パッケージがインストールされていない場合は、次のコマンドを使用してインストールします:

```
# pkg install pkg:/service/network/tftp
```

tftp パッケージをインストールしたら、udp6 サービスが使用可能でオンラインになっていることを確認します。

```
# svcs udp6
STATE          STIME    FMRI
disabled      8:36:55  svc:/network/tftp/udp6:default
# svcadm enable network/tftp/udp6
# svcs udp6
STATE          STIME    FMRI
online         8:38:28  svc:/network/tftp/udp6:default
```

10. このサーバーを JumpStart インストールサーバーと AI インストールサーバーの両方として使用することを計画している場合、/tftpboot ディレクトリを /etc/netboot ディレクトリにリンクします。

/etc/netboot ディレクトリが存在しない場合は作成します。

JumpStart はネットワークブートに /tftpboot を使用しますが、AI は /etc/netboot を使用します。したがって、2 つのツールが共存できるように、/tftpboot は /etc/netboot へのシンボリックリンクである必要があります。

ヒント - このサーバーを JumpStart インストールサーバーまたは AI インストールサーバーのいずれかとしてのみ使用することを計画している場合、このステップは不要です。ただし、このステップを実行しておくこと、あとで計画を変更する場合にネットブートエラーの失敗を回避できます。

```
# ls /etc/netboot
/etc/netboot: No such file or directory
# mkdir -m 755 /etc/netboot
# ln -s /etc/netboot /tftpboot
# ls -l /tftpboot
lrwxrwxrwx  1 root      root           12 Sep 14  8:46:51 /tftpboot -> /etc/netboot
```

11. クライアントをインストールします。

クライアントには完全修飾ホスト名を使用してください。この例では、クライアントのホスト名は `line2-x4100.example.com` です。

```
/export/s10u11_sparc/Solaris_10/Tools/add_install_client -e 8:0:20:fd:f2:18 \
-c line2-x4100.example.com:/export/profiles/s10profile \
-p line2-x4100.example.com:/export/profiles/s10profile line2-t1 sun4u
/export/home is already shared. However, the zfs file system
/export/home must be shared read-only with root access. Use the "zfs
set" command to set the sharenfs property for file system /export/home
as follows:Use ro and either anon=0 or
root=line2-x4100.example.com for /export/home. This must be
fixed and /export/home shared before line2-x4100.example.com can boot.
```

次のコマンドを使用して、`/export/home` ファイルシステムの共有状態を確認し、必要に応じて共有オプションを修正してから、ファイルシステムの共有状態をチェックして変更を検証してください。この例では、`anon=0` オプションは設定されていません。

```
# share
home /export/home nfs sec=sys,ro
# share -F nfs -o ro,sec=sys,anon=0 /export/home
# share
home /export/home nfs anon=0,sec=sys,ro
```


索引

あ

インストール

Oracle Solaris 11 サーバーから Oracle Solaris 10
を, 45

か

警告メッセージ

js2ai コマンドからの, 40

さ

条件のディレクティブ 参照 AI 条件

選択条件 参照 AI 条件

相違点

JumpStart と AI, 11

た

ディレクティブ 参照 AI マニフェストの要素 参照

AI 条件

デバイスの変換

any キーワード, 24

は

パッケージのインストール

js2ai コマンドと, 25

パッケージ名

IPS と SVR4, 25

比較

JumpStart と AI のインストールタスク, 11

プロファイルの変換情報を表示, 36

変換

JumpStart rules ファイルとプロファイル, 15

ま

マニフェスト 参照 AI マニフェスト

マニフェストのディレクティブ 参照 AI マニフェ
ストの要素

ら

類似点

JumpStart と AI, 11

ルートディスク

決定, 23

A

AI 参照 Automated Installer (AI)

AI 条件

JumpStart キーワードとの比較, 15

説明, 15

AI プロファイル

JumpStart ファイルを変換, 15

AI マニフェスト

AI 条件による指定, 15

JumpStart キーワードと比較した要素, 17

JumpStart ファイルを変換, 15

検証情報の表示, 36

定義, 15

any JumpStart rules ファイルキーワード, 16

any キーワード

js2ai コマンドの処理, 24

arch AI 条件キーワード, 16

arch JumpStart rules ファイルキーワード, 16

archive_location JumpStart プロファイルキーワード, 17

Automated Installer (AI)
JumpStart との比較, 11

B

backup_media JumpStart プロファイルキーワード, 17

boot_device JumpStart プロファイルキーワード
eeprom キーワードと, 18
説明, 17

bootenv JumpStart プロファイルキーワード, 18

C

client_arch JumpStart プロファイルキーワード, 18

client_root JumpStart プロファイルキーワード, 18

client_swap JumpStart プロファイルキーワード, 18

cluster JumpStart プロファイルキーワード, 18

console-login サービス
システム構成プロファイル, 39

cpu AI 条件キーワード, 16

D

-D 宛先オプション
js2ai コマンド, 39

disksize JumpStart rules ファイルキーワード, 16

domainname JumpStart rules ファイルキーワード, 16

dontuse JumpStart プロファイルキーワード, 18

E

eeprom JumpStart プロファイルキーワード
boot_device キーワードと, 18

environment サービス
システム構成プロファイル, 38

F

fdisk JumpStart プロファイルキーワード, 18

filesystem JumpStart プロファイルキーワード, 19

forced_deployment JumpStart プロファイルキーワード, 20

G

geo JumpStart プロファイルキーワード, 20

H

hostaddress JumpStart rules ファイルキーワード, 16

hostname JumpStart rules ファイルキーワード
説明, 16
置換, 30

hostname キーワードの置換, 30

I

install_type JumpStart プロファイルキーワード, 20

install サービス
システム構成プロファイル, 38

installed JumpStart rules ファイルキーワード, 16

IPS パッケージ名, 25

ipv4 AI 条件キーワード, 16, 16

J

js2ai コマンド

any キーワードの変換, 24

-D 宛先オプション, 39

JumpStart ファイルの変換, 22

-s sysidcfg オプション, 39

sysidcfg ファイルをシステム構成プロファイルに変換するために使用, 39

-S スキップオプション, 39

-V 検証オプション, 36, 43, 43

-v 冗長オプション, 36

ZFS ルートプールの決定, 24

パッケージのインストールと, 25
 変換警告メッセージ, 40
 ルートディスクの決定, 23

JumpStart

AI との比較, 11
 Oracle Solaris 11 サーバーでの使用, 45

JumpStart rules ファイル

AI 条件と比較したキーワード, 15
 AI でサポートされていないキーワード, 15
 AI ファイルへの変換, 15
 js2ai コマンドを使用して AI 条件およびマニフェストに変換, 22

JumpStart から AI への移行概要, 12

JumpStart プロファイル

AI でサポートされていないキーワード, 17
 AI ファイルへの変換, 15
 AI マニフェストの要素と比較した JumpStart キーワード, 17
 js2ai を使用して AI 条件およびマニフェストに変換, 22

K

karch JumpStart rules ファイルキーワード, 16
 keyboard キーワード
 sysidcfg ファイル, 37
 keymap サービス
 システム構成プロファイル, 37

L

layout_constraint JumpStart プロファイルキーワード, 20
 local_customization JumpStart プロファイルキーワード, 20
 locale JumpStart プロファイルキーワード, 20

M

mac AI 条件キーワード, 16
 mem AI 条件キーワード, 16
 memsize JumpStart rules ファイルキーワード, 16
 metadb JumpStart プロファイルキーワード, 20

model JumpStart rules ファイルキーワード, 16

N

name_service キーワード
 sysidcfg ファイル, 37
 name-config-user サービス
 システム構成プロファイル, 38
 name-nfs/mapid サービス
 システム構成プロファイル, 38
 name-service/switch サービス
 システム構成プロファイル, 37
 network_interface キーワード
 sysidcfg ファイル, 38
 network AI 条件キーワード, 17
 network JumpStart rules ファイルキーワード, 16
 nfs4_domain キーワード
 sysidcfg ファイル, 38
 no_content_check JumpStart プロファイルキーワード, 20
 no_master_check JumpStart プロファイルキーワード, 20
 num_clients JumpStart プロファイルキーワード, 20

O

osname JumpStart rules ファイルキーワード, 17

P

package JumpStart プロファイルキーワード, 20
 partitioning JumpStart プロファイルキーワード, 21
 patch JumpStart プロファイルキーワード, 21
 platform AI 条件キーワード, 16
 pool JumpStart プロファイルキーワード, 21
 probe JumpStart rules ファイルキーワード, 17

R

root_device JumpStart プロファイルキーワード, 21

root_password キーワード
sysidcfg ファイル, 38

S

-s スキップオプション
js2ai コマンド, 39
security_policy キーワード
sysidcfg ファイル, 38
service_profile キーワード
sysidcfg ファイル, 38
SMF サービス
システム構成プロファイル内, 37
SVR4 パッケージ名, 25
sysidcfg ファイル
AI システム構成プロファイルに変換, 37
キーワードとシステム構成プロファイルディレクティブの比較, 37
変換のための js2ai コマンドの処理, 39
system_locale キーワード
sysidcfg ファイル, 38
system_type JumpStart プロファイルキーワード,
22

T

terminal キーワード
sysidcfg ファイル, 39
timeserver キーワード
sysidcfg ファイル, 39
timezone キーワード
sysidcfg ファイル, 39
timezone サービス
システム構成プロファイル, 39
totaldisk JumpStart rules ファイルキーワード,
17

U

usedisk JumpStart プロファイルキーワード, 22

V

-v オプション

js2ai コマンド, 43
-v 検証オプション
js2ai コマンド, 36, 43
-v 冗長オプション
js2ai コマンド, 36

Z

ZFS ルートプール
決定のための js2ai コマンドの処理, 24